地質学雑誌　第127巻　第2号（通巻1505号）付録　令和3年2月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.24 No.2 February 2021

THE GEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN 1893

2021 年 3 月 2 日

東日本大震災から 10 年にあたって

一般社団法人日本地質学会
会長 磯﨑行雄

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災から間もなく 10 年となります．未曾有の大災害に対して各地で復興はすすんでいますが，未だ被災者の皆様の心の傷は十分に癒やされていないことでしょう．この 10 年間を顧みると，地震だけでなく，火山噴火，台風や大雨などによる風水害，土砂災害，大雪による雪害など，個別に挙げるのもためらうくらい多様な災害に見舞われました．さらに，新型コロナウィルスの世界的な蔓延は人間社会に計り知れない影響を与えています．

そんな中，再び 2 月 13 日に福島県沖で M7.3 の地震が発生し，地域によっては東日本大震災の時よりも大きな被害がでました．防災科学技術研究所によると，宮城県山元町の観測点でこの地震による揺れの加速度が 1432 ガルを記録しました．これは，2016 年 4 月 16 日の熊本地震において震度 7 を観測した熊本県益城町で記録された 1362 ガルを上回るものでした．今回の福島県沖の地震は東日本大震災を引き起こした東北地方太平洋沖地震の余震と考えられ，今後これを上回る余震が発生する可能性も否定できません．一人一人の人生のスケールとは違い，自然災害は決して 10 年で一区切りとはならないことを再認識させられました．

地質学会では，災害が発生する度に地質災害委員会を中心に会員が携わる災害調査，発生原因の研究結果等を取りまとめてホームページに掲載する等の活動を行ってきました．2011 年には東日本大震災にかかる「復旧復興にかかわる調査・研究事業」として会員による調査研究事業を支援しました．また，複合災害への対応や異なる研究分野との協働のため，地質学会は防災学術連携体（日本学術会議の協力学術研究団体；自然科学，人文科学，社会科学など多岐に渡る 58 学会で構成）に参画しています．その中で豊かな知見を全体で共有・活用できるよう各種シンポジウムなどを活発に行っています．今後もこのような社会に貢献する学術活動を進めていくことが，本学会の重要な使命の一つであることを会員の皆様と共有したいと思います．災害に強い社会を作るために互いに協力して頑張りましょう．

日本地質学会*News*

Vol.24 No.2 February 2021

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　小宮　剛
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

表2　東日本大震災から10年にあたって

チバニアン提案書の公開と，その引用について……1

案内……2
経済開発協力機構／原子力機関（OECD/NEA）におけるアンケート「信頼される規制機関の特性」協力依頼/第10回学生のヒマラヤ野外実習ツアーの延期

各賞・研究助成……2
第18回（令和３(2021)年度）「日本学術振興会賞」受賞候補者推薦/2021年度「深田野外調査助成」募集

公募……3
京都大学大学院理学研究科 附属地球熱学研究施設 助教公募/岡山理科大学理学部基礎理学科地学分野（岩石・鉱物関連）教員募集

CALENDAR……4

訃報……4

紹介……5
プレートテクトニクス・トランプ　公益財団法人日本発明振興協会（石渡　明）

2020名古屋大会代替企画……6
JABEEオンラインシンポジウム「自然災害列島における地質技術者の育成－大学統合期における地質学教育－」

TOPIC……7
（速報）2月13日夜の福島県沖を震源とするM7.3の地震：地震発生時・直後の仙台市内の様子（辻森　樹・高嶋礼詩）

追悼……9
名誉会員　藤田　崇先生のご逝去を悼む（三田村宗樹）/名誉会員黒田吉益先生のご逝去を悼む（森清寿郎）

学会記事……11
2020 年度第6回，第7回，第8回執行理事会議事録

表紙紹介……15
第11回惑星地球フォトコンテスト：スマホ賞「風と波の合作」（加藤聡一郎）

2021年度学部学生割引・院生割引会費受付中……16

チバニアン提案書の公開と，その引用について

チバニアンGSSPの提案申請書が，IUGS（国際地質科学連合）の学術誌Episodesに掲載され，ウェブサイトで公開されました．https://doi.org/10.18814/epiiugs/2020/020080

日本発の地質年代名称「チバニアン: Chibanian」の国際的認知度を高めるためにも，論文など出版物中で積極的にチバニアンGSSPに言及し，本提案書を引用してくださいますようお願いいたします．GSSPは10年間のモラトリアム期間が過ぎると再審査が可能になります．チバニアンの国際的認知度の向上が，将来的にチバニアンGSSPを維持することにも繋がりますので，会員の皆様には是非ともご協力をお願いいたします．

（日本地質学会学術研究部会）

2021学術大会
トピックセッション募集中
締切：2021年3月10日（水）

詳しくは，ニュース誌１月号または学会HP をご参照ください．

新型コロナウィルス感染拡大防止のため，**学会事務局は原則テレワークを実施し，問い合わせ等についてはメールのみでの対応としています．**皆様にはご不便をおかけしますが，ご理解の程，よろしくお願いいたします．
（参考）新型コロナウィルス感染拡大防止に関する学会の対応（2021年1月9日付）
http://www.geosociety.jp/news/n160.html

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都豊島区東池袋4－41－24

ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します.

経済開発協力機構／原子力機関（OECD/NEA）におけるアンケート「信頼される規制機関の特性」協力依頼

原子力に関する政策・技術に関する情報・意見交換，問題の検討等を行っているOECD/NEAから，信頼される規制機関の特性について任意のアンケートの対応依頼が参りましたので，ご案内させていただきます.

OECD/NEAの原子力規制活動委員会（CNRA）に設置された規制機関のパブリックコミュニケーションに関するワーキンググループ（WGPC）では，原子力規制機関とステークスホルダー間における信頼の維持・構築について議論をしており，本アンケートは，WGPCが2023年の出版を目指している実践的ガイド（グリーンブックレット）「信頼される規制機関の特性」を作成するための調査として実施されるものとなります.

※過去の関連資料に，NEAグリーンブック「The Characteristics of an Effective Regulator」(2014年)，「The Safety Culture of an Effective Nuclear Regulatory Body」(2016年）があります.

本アンケートの対象はNEA加盟国における個人であり，政府として回答をひとつにまとめることは求められておりません.

つきましては，ご関心のある方におかれましては，**3月15日までに**下記URLから調査ページを御参照いただき，ご回答いただけますようお願いいたします.

※アンケートの質問，回答は全て英語になります.

https://www.surveymonkey.com/r/XM7JZDG

問い合わせ先：
原子力規制庁大臣官房人事課：奥
電話：03-5114-2100（内線4611）

第10回学生のヒマラヤ野外実習ツアーの延期

2021年3月実施予定の表題のツアーは2022年3月に延期となりました.

学生のヒマラヤ野外実習プロジェクト
www.gondwanainst.org/geotours/Studentfieldex_index.htm
世話人会代表　吉田　勝
E-mail: gondwana@oregano.ocn.ne.jp
Tel & Fax : 0736-36-7789

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の募集・推薦依頼等をご案内致します.

第18回（令和３(2021)年度）「日本学術振興会賞」受賞候補者推薦

趣旨：我が国の学術研究の水準を世界のトップレベルにおいて発展させるためには，創造性に富み優れた研究能力を有する若手研究者を早い段階から顕彰し，その研究意欲を高め，研究の発展を支援していく必要があります．この趣旨から日本学術振興会は，平成16年度に日本学術振興会賞を創設しました.

対象分野：人文学，社会科学及び自然科学にわたる全分野

授賞：授賞数は25名以内とし，受賞者には，賞状，賞牌及び副賞として研究奨励金110万円を贈呈します．なお，日本学士院により，日本学術振興会賞受賞者の中から日本学士院学術奨励賞受賞者が選考されます.

対象者：国内外の学術誌等に公表された論文，著書，その他の研究業績により学術上特に優れた成果を上げたと認められる者のうち，令和３(2021)年４月１日現在以下の1）から3）の条件を満たす者とします．　また，これまでにご推薦いただいた候補者のうちの女性割合は極めて低いというのが現状です．女性候補者の積極的な推薦をお願いいたします.

1）次の a) 又は b)を満たすこと.
a) 日本国籍を有する者（海外在住の日本国籍を有する研究者を含む）
b) 外国人であって我が国で５年以上研究者として大学等研究機関に所属しており，今後も継続して我が国で研究活動を予定している者
2）45歳未満であること（出産・育児による休業等に関する例外取扱い※）
3）博士の学位を取得していること（博士の学位を取得した者と同等以上の学術研究能力を有する者を含む）
※大学等研究機関の長が当該機関に雇用されている候補者を推薦する場合であって，人事記録等により候補者の出産・育児による休業等（休暇，休職，離職を含む）の期間を推薦者が確認できる場合は，47歳未満とします.

推薦権者：※自薦は受け付けません.
1）機関長推薦 我が国の大学等研究機関又は学協会の長
2）個人推薦 優れた研究実績を有する我が国の学術研究者

受付期間：2021年3月31日（水）～4月5日（月）17:00（必着）（学会締切：3月25日(木)）

推薦書類（紙媒体）の提出先及び問い合わせ先
〒102-0083 東京都千代田区麹町5-3-1
独立行政法人 日本学術振興会 人材育成事業部 研究者養成課
「日本学術振興会賞」担当
TEL：03-3263-0912　Email：jsps-prize@jsps.go.jp
URL https://www.jsps.go.jp/jsps-prize/

2021年度「深田野外調査助成」募集

趣旨：公益財団法人深田地質研究所では，1993年以来，「深田研究助成」を行って，地球科学を研究する若手研究者を支援してきました．さらに，2018年度から，大学在学中の学生に対しても「深田野外調査助成」を開始しました．深田野外調査助成は，地球科学に関連する分野を学んでいる学生を対象にして，その研究遂行のために，国内における野外調査の支援に特化した助成です.

応募資格：大学に在学中で，地質・地球物理・環境・地盤・建設・エネルギー資源などの分野を専攻する，学部生，博士前期課程（修士課程）及び博士後期課程の学生．また，高等専門学校の専攻科に在籍し，上記の分野を専攻する学生.

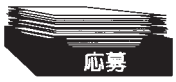
推薦者：推薦者は，申請者の研究を直接指導している方に限ります．なお，同一の推薦者が複数の学生を推薦する場合は，順位をつけて推薦してください.

助成対象：助成の対象は，国内における野外調査（現場見学も含む）に関わる以下の旅費・交通費等とし，1件あたりの合計は，15

万円とします.
1）鉄道，航空，船，バスなどの運賃　2）レンタカー代，機器レンタル費　3）燃料費，有料道路料金　4）宿泊費　5）その他消耗品，保険料など（3万円以内）
申請者と野外調査を共に行う補助員等の旅費・交通費にも適用できます.
複数の学生が参加する場合には，学生の代表者が申請してください.
当該年度の「深田研究助成」の採択者は，「深田野外調査助成」の対象にはなりません.
なお，当所は野外調査時の事故や傷害に対する責任は負いません．必要と思われる保険等は各自で掛けてください.
採択件数および金額：1）採択件数：20件，2）助成額の総計：300万円
提出締切日：2021年4月23日（金）
問い合わせ先：
〒113-0021東京都文京区本駒込2-13-12
公益財団法人深田地質研究所　総務部　高木
E-mail：grant@fgi.or.jp
申請書の様式など，申請に関する詳細は，当研究所のホームページ（https://fukadaken.or.jp/）を参照してください.

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します.



京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設助教公募

職種：助教
募集人員：1名
所属および勤務場所：
・京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設本部
・所在地：大分県別府市野口原 3088
専門分野：地熱テクトニクス研究分野あるいは地熱流体論研究分野
勤務内容：地殻内の熱・水・物質の流れやそれらと関連するテクトニクスの研究と教育を、地球物理学的、地質学的あるいは地球化学的に推進する。
資格等：
(1) 博士の学位を有すること
(2) 本研究施設が位置する九州の地熱温泉地域や火山を活かした研究に意欲的に取り組むこと
(3) 学部および大学院の教育に意欲的に取り組むこと
(4) 地域社会貢献、アウトリーチ活動に積極的であること
(5) 野外における観測や調査に従事できること
着任時期：採用決定後、できるだけ早い時期
任期：なし
応募締切：令和３（2021）年３月 31 日（水）必着
書類送付先および問い合せ先：
〒874-0903 大分県別府市野口原 3088
京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設 大沢信二
電話 0977-22-0713
e-mail：ohsawa@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp
応募方法等詳細は，HPを参照してください.
http://www.vgs.kyoto-u.ac.jp/ をご覧ください.

岡山理科大学理学部基礎理学科地学分野（岩石・鉱物関連）教員募集

1．機 関 岡山理科大学
2．所 属 理学部・基礎理学科
3．職 位 講師又は助教 1 名
4．専門分野 地学分野（岩石・鉱物関連）
5．主な担当科目 環境地球化学，鉱物科学，地学実験，地球科学実験，野外実践指導実習Ⅰ・Ⅱ，授業実践演習，地球惑星科学特論Ⅲ（大学院）
6．応募条件
（1）博士の学位を有する者，又は着任時までに取得見込みの者で教育・研究に対して十分な能力と熱意のある方
（2）野外実習科目，理科教員養成科目および情報系科目の運営に積極的に協力ができる方
7．採用予定日 令和３年９月 1 日，またはそれ以降なるべく早い時期
8．提出書類
（1）教員個人調書及び業績一覧
（2）主要論文（３編）の別刷り（またはコピー）及びその解説（未公表論文には掲載証明書の写しを添付のこと）
（3）問い合わせ可能な推薦者２名の氏名および連絡先
9．応募期限 令和 3 年 5 月 7 日(金) 必着
10. 書類送付先
〒700-0005 岡山市北区理大町１－１
岡山理科大学 理学部 基礎理学科 学科長 東村 秀之
（封筒に「教員応募（地学分野）」と朱書きし，簡易書留または書留で郵送のこと）
11. 問合せ先
理学部 基礎理学科 学科長 東村秀之
E-mail: higashimura@das.ous.ac.jp
研究室 TEL:086-256-9476 事務 FAX:086-256-8006
提出書類様式等，公募詳細は，以下を参照してください.
https://www.ous.ac.jp/topics/detail.php?id=2295&cat=8

事務局からのお願い：会員情報に変更があった場合は，，，

年末から年度末にかけては，会員情報の登録内容にご変更が多く発生する時期です．**自宅や勤務先等登録内容にご変更があった場合は，速やかに学会事務局までご連絡をお願い致します．**また，学会ホームページ「会員ページ」にログイン（ID：会員番号）していただければ，ご自身で登録内容を更新することも可能です．ご協力をよろしくお願い致します.

問い合わせ：日本地質学会事務局　メール：main@geosociety.jp
電話 03-5823-1150　FAX 03-5823-1156

CALENDAR

2021.3〜

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，（共）共催，（後）後援，（協）協賛．

2021年

3月　March

令和２年度海洋プラスチックごみ学術シンポジウム（オンライン）
3月3日（水）9:30 〜 17:30（予定）
主催：環境省
参加費：無料，定員：500名
https://www.env.go.jp/press/108945.html

東京大学大気海洋研究所共同利用研究集会
琉球弧ダイナミクスの新展開：島弧ダイナミクスの理解への新たな切り口
3月3日（水）〜 4日（木）9:00 〜 12:30,
場所：Zoom meeting（事前の参加登録が必要です）
https://www.aori.u-tokyo.ac.jp/aori_news/meeting/2021/20210303.html

Tokai University Online Workshop
Challenges of Marine Observations and Development of International Collaboration
3月6日（土）8:30 〜 16:00 (JST)
http://www.scc.u-tokai.ac.jp/iord/

地区防災計画学会第7回大会「ポストコロナ時代のコミュニティ防災」（オンライン）
3月6日（土）9：30〜17：30（予定）
対象：地域防災力の強化や地区防災計画づくりに興味のある方
参加費無料
https://gakkai.chiku-bousai.jp/ev210306.html

★JABEEオンラインシンポジウム 自然災害列島における地質技術者の育成ー大学統合期における地質学教育ー（2020名古屋代替企画）
3月7日（日）14:00〜16:40（予定）
配信方法：ZoomにYou Tubeを連動させるオンライン方式
参加費無料．Zoom参加者は事前登録制
http://www.geosociety.jp/science/content0127.html

第55回日本水環境学会年会（オンライン）
3月10日（水）〜12日（金）
http://www.jswe.or.jp/event/lectures/2020per.html

5月　May

日本地球惑星科学連合2021年大会
開催方式：ハイブリッド開催（オンライン開催＋現地開催）
現地会場：パシフィコ横浜ノース
5月30日（日）〜 6月1日（火）/現地開催（主としてポスター発表）
6月3日（木）〜 6月6日（日）/オンライン開催（口頭，ポスター）
http://www.jpgu.org/meeting_j2021/

6月　June

地質学史総会・懇話会
6月26日（土）13:00 〜 17:30（予定）
場所：北とぴあ 8階803号室（JR京浜東北線王子駅下車3分）
・志岐常正：「戦後京大地質学教室史―その虚像と実像」
・矢島道子：『地質学者ナウマン伝』を上梓して
（注）状況によってはオンラインまたはハイブリッドでの開催を検討

7月　July

（後）第58回アイソトープ・放射線研究発表会（オンライン）
7月7日（水）〜9日（金）
演題登録期間：2021年1月12日〜3月8日
https://confit.atlas.jp/guide/event/jrias2021/top

（後）科学教育研究協議会 第68回全国研究大会・福島大会
7月31日（土）〜8月2日（月）
会場：伊達市立霊山中学校（福島県伊達市霊山町）
大会テーマ 自然科学をすべての国民のものに
※新型コロナウイルスの感染状況により，Web大会に変更する場合があります．
https://kakyokyo.org/

9月　September

国際ゴンドワナ研究連合（IAGR）2021年大会及び第18回ゴンドワナからアジア国際シンポジウム
9月17日（金）〜 19日（日）（会議）
9月20日（月）〜 21日（火）（野外巡検）
会場：中国青島
ファーストサーキュラー：
www.gondwanainst.org/symposium/2021/IAGR2021Invitation.htm

注意：新型コロナウィルス感染拡大の影響により，行事中止の可能性もあります．実際の行事開催の有無については事前に各主催者，問い合わせ先にご確認ください．

訃　報

本会の次の方々が逝去されました．謹んで哀悼の意を表します．

名誉会員　藤田　崇（2020年11月16日）
黒田吉益（1月4日）

正会員　古賀孝徳（2020年4月1日）
土志田達治（2020年11月11日）
白木敬一（2020年10月16日）
宇田進一（1月3日）
松島義章（1月12日）
楡井　久（1月28日）

紹　介

プレートテクトニクス・トランプ

公益財団法人日本発明振興協会

企画・編集・執筆：柴田治呂（同協会），イラスト：玉井奈津子（グラパックジャパン（株）），54枚（ジョーカー2枚含む，紙箱入り）1000円（税込），89×57mm 2017（平成29）年から発売

これは表側にプレート（♠），地震（♥），火山（◆），地質（地球表層）（♣）に関連した図や写真とその説明文を，裏側に地球全体の衛星画像（インドシナ中心）を印刷したトランプである．描かれている内容は学問的にも概ね正確であり，デザインや印刷も美しく，紙質もしっかりしていて扱いやすく，繰り返し使用に耐える．左上と右下にA～Kの英数字と組記号が印刷され，J, Q, Kの札は右上に人物像も描かれているので，普通のトランプとして使うのに支障はない．

同じ数字の4枚の札は内容が関連していて，例えばA（エース）の札は世界地図にプレート（♠），地震（♥），火山（◆），造山帯（♣）の分布が示されている（付図参照）．模式図や分布図だけでなく，♥3の1995年兵庫県南部地震野島断層トレンチ露頭，♣Jの2011年東北地方太平洋沖地震による地殻変動，◆9の1986年伊豆大島噴火，◆Qの2012年ハワイ・キラウェア噴火等，最近発生した実事象の図や写真も多く使われている．地質分野は，♣2が日本海拡大の図，♣3は阿蘇カルデラ，♣4は海底のコバルトリッチクラスト，♣5は海底熱水噴出孔，♣6は長瀞の変成岩露頭，♣７はスイスのグラールス衝上断層露頭，♣８はサンアンドレアス断層の航空写真，♣9は南房総の海岸段丘，♣10は月出の中央構造線露頭，♣Qはアフリカ大地溝帯となっている．♠Q，♥Qのようにプルームに関する内容もあり，最後は♠Kの地球内部構造図，♥Kの地球の自由振動と2004年スマトラ地震の表面波の時刻歴波形，◆Kの洪水玄武岩とペルム紀末の大量絶滅，♣Kのユカタン半島の隕石衝突と大量絶滅で締めている．なお各組9は関東地方特集で，♠相模トラフ地震の震源域，♥関東地震年代表，◆伊豆大島噴火，♣南房総の海岸段丘となっており，各組10は南海トラフ地震特集で，♠震源域，♥年代表，◆宝永富士山噴火，♣中央構造線となっている．ジョーカー2枚はゴンドワナ超大陸とパンゲア超大陸を示した半球図で，それぞれ太平洋スーパープルーム，大西洋スーパープルームの位置が示してある（これらはジョーク？）．パンゲアは北極から南極まで大陸が一列に並んでいたが，ゴンドワナは大陸が南半球に集中していた．

ところで，最近は多様性の時代なので，カードゲームを「トランプ」というのは日本だけであることに注意する必要がある．「トランプtrump」は切り札（強い札）のことで，明治時代に英米人が「トランプ」と叫びながらカードゲームをやっているのを見て，この遊びは「トランプ」と言うのだと日本人が勘違いしたのだと言われている．今となっては皮肉に聞こえるが，切り札となる「トランプ」には「すばらしい人」，「頼もしい人」，「立派な人」という意味がある．英語ではこの遊びを単にcards, playing cardなどと言い，中国では撲克牌（pūkepái, ポーカー札）と言う．日本では英米式の13枚×4組＝52枚のトランプが一般的だが，枚数は国によって異なり，イタリアでは40枚，ロシアでは36枚が普通である．日本の花札は4枚×12ヶ月＝48枚だが，これは江戸時代のポルトガルのトランプに従った枚数とされる．1980年頃から米国発のUNOが流行したが，これは108～112枚を用いる．さらに，麻雀máquè（標準中国語では麻将májiàng）牌は日本では普通136個を用いる．

遊び方として，付属の説明書には，「同じ数字のカードには関連性が深い現象が配置されていますので，“うすのろ”，“ドンキー”，“オーサーズ”など同じ数字のカードを4枚集めるゲームは特におすすめです」とあり，同じ数字の4枚を集めるオリジナル・ゲームも紹介されている．3枚揃っている時に4枚目が場に出たらポンと言って取ることができるとのことだが，これはカンではないだろうか．その他，百人一首のように「読み手がカードの説明文を読み上げ，該当するカードを取り合うという遊び方もできます」．この場合，「カードが２組あれば簡単にできますが，ない場合は説明文をコピーする必要があります」とのことである．地学の授業に応用するには，このトランプを生徒の机上に並べさせ，話の筋に応じて関連する札を探させて説明文を読み上げさせたり，3～4枚の札を選んでストーリーを作らせ，それを発表させたりすれば，生徒の興味を喚起して学習効果を高めることができると思う．一般の人にとっても，パラパラめくって見るだけでも楽しく，邪魔になる大きさでもないので，ちょっとした贈り物にも適していると思う．

発明振興協会はこの他にDNA，元素周期表，電気，ニュートン力学，方程式と図形，科学技術偉人のトランプを販売しており，それらのトランプを利用した教育プログラムを提供している．
https://manabi-mirai.mext.go.jp/search_program/detail/000964.html
https://www.kyobun.co.jp/news/20180402_02/

このトランプの内容は，プレートテクトニクスに関連した地学の広い分野の重要な事項を選択していて，イラストや図表・写真が美しく，説明文も概ね正確で要を得ており，この分野の学習に大いに役立つものになっていると思う．そして遊び道具のトランプとしての基本である扱いやすさと耐久性を備えている．地学の教育と普及に是非この「発明品」を利用していただくよう，会員各位にお勧めする．

拙文の原稿を読んで貴重なご意見を寄せられた池田保夫氏と棚瀬充史氏に感謝する．

※付図の大きな画像は学会HPでご覧いただけます．
http://www.geosociety.jp/fag/content0940.html

（**石渡　明**）

2020代替企画

JABEEオンラインシンポジウム
自然災害列島における地質技術者の育成
－大学統合期における地質学教育－

近年，日本列島各地では豪雨や台風による災害が頻発している．加えて地震や火山による災害も多発している．同時に今年は，新型コロナウィルス（COVID-19）禍のため，防災・減災のための調査，対策などの行動に制限が加わり，さらに専門教育や普及活動にも弊害が生じている．
これらの自然災害は，日本列島の地質や地形に密接な関係をもって発生している．このような日本列島に住む我々が防災・減災により安全で安心した生活をおくるためには，足下の自然の特徴を科学的に把握して，対策をたてることが重要である．同時に，それに携わる人材の輩出，育成が社会から求められている．
大学における地質学の専門教育に加え，卒業後の地質技術者としての養成教育は，この社会の要請に応えるものであり，今後，一層精力的に行われなければならない．一方，大学では国立大学の統合や大学教員の削減など，充実した専門教育の展開が困難になっている．
日本地質学会では本テーマを議論するため名古屋大会でのシンポジウムを企画したが，新型コロナウィルス禍のために同大会が順延となった．代替企画としてオンラインシンポジウムを開催し，大学における技術者育成プログラム（JABEE：日本技術者教育認定機構）を通じて，大学での地質学教育のあり方と今後，地質技術者の養成の現状と将来，企業での地質技術者の継続教育（CPD）について考えていきたい．

地質技術者教育委員会
委員長 天野一男

日時：2021年3月7日（日）14:00～17:15（予定）
配信方法：Zoom & You Tube 配信
参加費無料．Zoom参加者は事前登録制（YouTube視聴の場合は申込不要）
※YouTubeご視聴の方も，当日はチャットによる質問を受け付けます．

プログラム（予定）【敬称略】
開会挨拶
趣旨説明　理事・地質技術者教育委員会委員長 天野一男（東京大学空間情報科学研究センター客員研究員）
「JABEEの近況」三田清文（一般社団法人日本技術者教育認定機構専務理事）
「地質学教育をディフェンスするJABEE」理事・広報委員長 坂口有人（山口大学理学部教授）
「私立大学におけるJABEE教育 」地質技術者教育委員会委員 竹内真司（日本大学文理学部教授）
「地質調査業とJABEE制度」中川 渉（応用地質株式会社取締役経営企画本部長）
「JABEE 修了生におけるJABEE のメリット」井田貴史（応用地質株式会社エネルギー事業部専任職）
「島根大学地球科学科のJABEEコースで体験したメリット～学生の立場から～」仲山　暢（島根大学大学院自然科学研究科修士課程）
「地質学会のJABEEとCPDに対する取り組み」理事・副会長・地質技術者教育委員会副委員長 佐々木和彦（応用地質㈱）
「総合討論：大学の生き残りをかけた教育の質の保証と社会への貢献（仮）」
閉会挨拶

※学会HPから講演概要（PDF）がDLできます
※最新の情報は，随時学会ホームページに掲載します．また，ニュース誌，geo-Flashでもお知らせいたします．

（左から）図7．東北大学理学部化学棟6階　博物館標本・文献保管スペース2.（東北大学青葉山キャンパス，撮影：高嶋）．図8．東北大学理学部化学棟6階，落下防止措置済み博物館標本・文献保管スペース（東北大学青葉山キャンパス，撮影：高嶋）．

TOPIC

速報）2月13日夜の福島県沖を震源とするM7.3の地震：地震発生時・直後の仙台市内の様子

辻森　樹・高嶋礼詩（東北大学）

2021年2月13日午後11時8分ごろ，福島県沖（北緯37.73度，東経141.8度）でマグニチュード7.3（推定）の地震が発生した．震源の深さは約55 kmで，東北地方を中心に広範囲で揺れを観測し（仙台市青葉区は震度5強），気象庁は翌日14日に会見を開き，10年前に起きた東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の余震と説明した．西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型の地震で，日本海溝に沈み込む太平洋プレートの「スラブ内地震」と考えられる（気象庁 報道発表資料「令和3年2月13日23時08分頃の福島県沖の地震について」2月14日1時10分）．https://www.jma.go.jp/jma/press/2102/14a/kaisetsu202102140110.pdf

以下，辻森と高嶋の個別リポート

地震発生時，私（辻森）はちょうど自宅（大学宿舎）で眠りについた直後で，長い揺れで目が覚めた． 2018年の学術大会（札幌大会）を襲った北海道胆振東部地震の時は，札幌市内のホテルで飛び起きたが，今回はジワジワ目が覚めた感がある．ベッドのなかから「まだ揺れてる,,,」とツイートできたほど，揺れは比較的長く続いた．「大きな縦揺れが10秒あまり」（NHK NEWS WEB「震度6弱 NHK仙台局 大きな縦揺れが10秒あまり」2021年2月13日 23時20分）とのことだが，大きな揺れのタイミングではまだ夢のなかにいたようで，長い揺れが収まり，寝室からでてから，地震後の部屋の惨状に今回の地震がかなり大きなものであったことを知った．まず，テレビでニュースを見ようとしたが，テレビが消えていた（テレビを載せていた棚が壁から移動し，その隙間にテレビが落下）．食卓テーブルの上に置いていた物のほとんどが横滑りして床に散らかっていた．台所の食器棚2つも20 cmほど横に移動し，シンクは棚からの落下物で埋まっていた．さらに，壁に飾っていた絵画５つのうち４つが落下，机や棚の上に設置していた電子楽器類も床に転がっていた．幸いにも停電・断水にはならなかった．

地震発生当時の夜は午後10時頃までは複数の学生が大学（川内キャンパス）で実験をしていたが（私もその頃までは大学に居た），幸い，地震発生前には皆帰宅していた．メールなどで留学生を含めて複数の学生の安否が確認できた．しかし，実験室が心配だったので，遠方に住む娘に安否を電話で伝えながら着替えて，折りたたみ式ヘルメットとアマチュア無線機をショルダーバックに入れて，徒歩２分の距離の大学に向かった．地下鉄の運転停止で，地下鉄駅（仙台地下鉄東西線川内駅）前の

（左から）図1．地震によるコンクリートのひび割れの様子（東北大学川内キャンパス，撮影：辻森）．
図2．東北大学自然史標本館の浮遊性有孔虫化石の石膏模型展示．絡まっているが破損は無し（東北大学青葉山キャンパス，撮影：高嶋）．図3．東北大学理学部地学棟5階，井龍教授室．多くの書物が落下（東北大学青葉山キャンパス，撮影：井龍康文）．

（左から）図4．東北大学理学部地学棟6階，鈴木紀毅准教授室．つっかえ棒により転倒は免れたが，書籍の多くが落下（東北大学青葉山キャンパス，撮影：高嶋）．図5．東北大学理学部化学棟6階　エレベーター /居室の接合部分が大きく破損（東北大学青葉山キャンパス，撮影：高嶋）．図6．東北大学理学部化学棟6階　博物館標本・文献保管スペース1．（東北大学青葉山キャンパス，撮影：吉田武義）．

バス停には遅い時間の割に人が目立った．大学に向かう途中，地震後，タクシーで大学に駆けつけ，実験装置の状態を確認し終えて下宿に帰る途中だった博士課程の学生とすれ違い，実験装置の無事の第一報を受けた．大学に到着すると，学生の部屋などは，床に書類や文房具が散乱した状態であったが，水漏れや発火がないことを確認できたので，部局長にメールで状況を伝え，帰宅した．帰宅後は，自宅の床の片付けを先延ばしし，モバイルバッテリーの充電の他，水筒に水の確保と浴槽に水をためてから就寝した．Webのニュースで地震の状況を調べたい気持ちもあったが，疲れていたので余震も全く気にならず朝まで熟睡した．

翌朝，大学に着くと，夜には気が付かなかった建物及びその周辺のひび割れが目立った（図1）．学生の部屋では想像以上に床に落下したマグカップが割れていたようで割れ物のゴミが集められていた．週末にも関わらず，既に学生らが被害状況を撮影した後，自主的に片付けを終えていて感心した．幸い私の居室は部屋の隅の花瓶が１つと，ティーパック受けの小皿が１枚割れただけで，壁に新しくできたひび割れを除いて大きな被害はなかった．地震対策として，キャスター付きの机・テーブルは固定するのが正しいのだが，私の居室では２つの机を日常的に動かしていて固定していない．今回，居室のなかで非固定の机・テーブル２つが大きく水平移動していたものの，机上に不安定に積み上がった書類も小物もパソコン用の液晶モニターも崩れずにそのままの状態にあったのは驚いた．私は10年前の東日本大震災を経験しておらず，今回の地震は札幌大会で経験した北海道胆振東部地震と同等の地震の経験になった．地震は避けることのできない自然現象という意識はあるものの，実際に大きな地震が起こってみると改めて日常的な地震への備えが不十分であることを率直に反省した．

（2021年2月14日 **辻森　樹**）

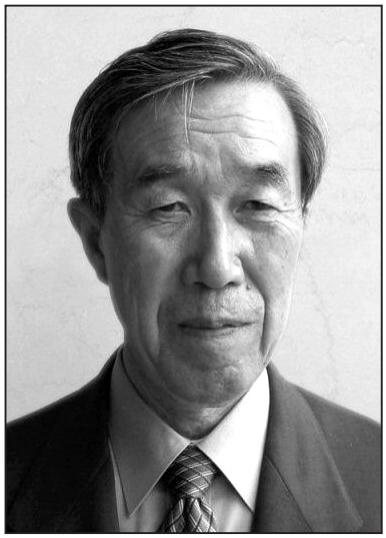
《2月14日-15日未明》地震が起きた時，私（高嶋）はちょうど就寝直後で，大きな揺れと家のきしむ音で飛び起きた．家族は全員2階で寝ていたが，2階は本が数冊落ちたくらいでとくに被害はなかったので，1階の様子を見るために下に降りた．東日本大震災後にできた家のため，本棚や食器棚などの収納家具は全て立て付け・ドア付きが幸いし，何も落下物は無かった．とくに収納家具のドアに緩くゴムをかけていたことで，落下をかなり防げたと思われる．しかし息子の飼育している水生生物の水槽付近が大惨事を引き起こしていた．まず居間の海水魚水槽周辺と金魚水槽の周辺は揺れによって海水・淡水がそれぞれこぼれて床が水浸し．特に海水魚水槽付近では延長コードにも海水が侵入していたため，まずは海水除去に時間を取られ，40分ほど拭き掃除をすることとなった．続いて，玄関へ移動．ここにも，3つの淡水魚水槽から水が吹きこぼれ，水浸しになっていた．ここには4つの水槽があり，それぞれの住人は，ナマズ×２，二ホンウナギ，メダカ×10，ギラファノコギリクワガタであったが，いずれも地震の前後を通して全く平常通りで，地震予知に全く役に立たないと痛感しつつ，さらなる拭き掃除に時間を費やした．1時過ぎに家がひとまず落ち着いたので，大学からの安否情報確認メールに返信し，標本館と研究室に車で向かった．私の居室・実験室は震災後に一時的に建てられた2階建てのプレハブ（その後恒久施設として残ることとなった）にあり，公式名称も「仮設校舎A」という，まるで実名報道不可の様な名前の建物である．しかし，この建物はコンクリのべた基礎で，比較的丈夫な作りだったため，幸い，実験室のビーカー等のガラス機器類が一部落下により破損しただけで，棚が外れたりゆがんだりすることもなく大きな被害はなかった．最も心配していた薬品棚も，薬品を全てケースに収納し，さらに耐震固定をしていたため無事だった．東日本大震災の際は，薬品棚が倒れて，取り出しする面が床を向いていたために，薬品を取り出すこともままならなかったが，今回，きちんと固定していたことが功を奏したのかもしれない．大量のサンプルも落下措置をしていたため無事だったし，居室も本が数冊落ちていただけで済んだ．続いて自然史標本館の展示室・収蔵室をみたが，やはりここも落下物や破損はほとんど確認されなかった．展示品の吊り下げた浮遊性有孔虫化石の石膏模型が絡まっていたのと（図2），収蔵庫の数10 cmサイズのアンモナイトが1つ落下して割れた程度で済んだようである．当館は高層建築でないことと，安全衛生委員会の定期巡視の際に様々な指摘を受けており，その都度，落下防止等の措置を講じていたことも，被害の回避につながったものと思われる．

《2月15日》翌朝，さらに被害状況確認を行った．6階建ての地学棟は高層階ほど被害が大きく，井龍教授の部屋（5階）や長濱教授・鈴木准教授の部屋（6階）はコンピューターや書籍，観葉植物などの落下が激しかった模様で（図3，4），同じフロア―の学生実習室では顕微鏡5台が落下により破損した．学生部屋のパソコン・モニター等も多くが落下もしくは転倒していた．また，理学部の建物の多くは，エレベーター部分と居室・実験室部分が短い渡り廊下でつながった構造であるが，この連結部が大きく破損していた（図5）．これは10年前の東日本大震災でも同様であった．機械類の被害の実態が分かるまではしばらくかかりそうである．我々の博物館が標本置き場にしている化学棟6～8階はさらに被害が大きく，本棚も固定していたが，壁ごと外れて倒れていたり，中のものが飛び出していた（図6，7）．転落防止措置を行っていたものは比較的軽微で済んでいたが，それでも本の落下を完全に止めることができなかった（図8）．化学棟の6階以上の高層階は東日本大震災後に居室としての使用が禁止されていたのは，判断として正解だったと思われる．

（2021年2月15日　**高嶋礼詩**）

令和3年2月福島県沖を震源とする地震に関連する情報を学会HPに掲載しています．
http://www.geosociety.jp/hazard/content0100.html

追　悼



名誉会員　藤田 崇先生のご逝去を悼む

日本地質学会名誉会員 藤田 崇先生（大阪工業大学名誉教授）が2020年（令和2年）11月16日に享年85にて逝去された．

藤田 崇先生は，1935年4月に島根県でお生まれになり，1958年に大阪市立大学理工学部地学科を卒業され，原子燃料公社（現日本原子力研究開発機構）に入社された．1971年9月に大阪市立大学から理学博士の学位を取得され，1963年には大阪工業大学工学部に赴任され，1975年に教授に昇進された．2001年3月には大阪工業大学を退職され，名誉教授となられた．

原子燃料公社在職時には，人形峠でウラン鉱床の探査に従事されている．新第三系の含ウラン礫層の追跡を地質踏査，物理探査，ボーリング調査などを行いながら鳥取層群や北但層群の調査を実施された．その成果の一部は，岡山県北部から鳥取県中部の鳥取層群や三朝層群の地質図として示し，それらの層序を明らかにした報告を地質学雑誌などに発表されている．

大阪工業大学に着任後に始められた地すべり研究の発端としては，大阪・奈良府県境の大和川沿いの亀の瀬地すべりや高知県長者地すべりなどを手始めに，弾性波探査や詳細な地質踏査による地すべり機構の解明に向けた取り組みを進められた．特に，亀の瀬地すべりでは，二上層群の火山層序と地すべり現象との関係を示された．さらに，四国三波川変成帯や各地の新第三系の地すべりの発生機構解明に大きな貢献をされてきた．各地域での地すべりの地質学的研究から，地質規制（岩相規制と地質構造規制）の概念を提唱し，地すべりの地質学的研究を体系化された．また，地質・地形データの融合を進め，地質的特性を定量的に表すために地形学の手法を取り入れ，地すべりと地質との関連について定量的評価ができる手法を開発されたことから，地質体ごとの地すべりの特性を明確にすることが可能となった．これらの成果は，「斜面地質学」（日本応用地質学会），「地すべり－山地災害の地質学」（共立出版），「地すべりと地質学」（古今書院）などの編著にまとめられている．これらの書籍は，大学・研究機関の研究者，地すべり技術者，行政担当者などの幅広い職種の関係者にとって必読の書となっている．このように，地すべり現象を地形・地質総合の観点から体系化された先駆者のおひとりである．

日本地質学会での活動として1986年地質学論集28号「斜面崩壊」が藤田先生編集責任者で刊行された．この論集は半年で完売し，追加印刷されたがこれも完売となり，地質学論集始まって以来の出来事だったようである．さらに，日本地質学会100周年事業委員として活躍されたほか，当時の将来検討委員会の応用地質分会委員長を務められた．

また，「斜面地質学」（日本応用地質学会発行）を刊行されている．特に，近畿圏では，軟弱地盤，盆地，斜面，断層，風化など応用地質学にとって多様なフィールドが存在し，この地域の豊富な情報を集積させ，地域の応用地質学的研究の推進・普及，地質技術者の育成に努められた．

地質学関係の学会活動だけでなく，日本地形学連合では会長(1985年－1986年)を務められたほか，日本地すべり学会論文賞を1996年に受けておられ，幅広い学会活動を行われてきた．日本地質学会・日本応用地質学会・日本地形学連合から名誉会員の称号を受けられたのみならず，2014年には教育研究功労での瑞宝中綬賞を受章されており，その幅広い活動が評価されている．

「地球環境と応用地質」(日本応用地質学会関西支部20周年記念論文集，1991年刊行)に示された記念事業の趣旨を示した記述に，「今後，応用地質学が率先して取り組まざるをえない主要テーマは，地域環境の積み重ねである地球環境に関連した諸問題であろう」とし，応用地質＝土木地質という単純な図式でなく，環境地質的課題に積極的に取り組む必要があることを指摘し，深層ボーリングや地盤データベースの重要性，各種の物理探査と地質調査結果の融合，揚水規制に伴って蓄積されなくなった地下水関係データの問題，重金属による地質汚染など，関西の地盤環境研究の問題点を指摘されている．1995年兵庫県南部地震を契機に急速な平野地下データの蓄積につながってきており，これらの指摘が先見的なものであったことがうかがえる．

海外との学術連携に関して，2001年に日本-ベトナム空間情報学連合（JVGC：Japan-Vietnam Geoinformatics Consortium）の設立の際，連携会議の日本側の会長を務めていただいた．この学術連携体は，日本の空間情報学・情報地質学・応用地質学関係の研究室を有する大学関係者とベトナムの類似の研究室を持つ大学関係者の学術交流促進を促進するために設立された．2002年にはベトナム・ハノイで，地球科学と応用科学における空間情報基盤開発のための地球情報学国際シンポジウム（GIS-IDEAS：International Symposium on Geoinformatics for Spatial Infrastructure Development in Earth and Allied Sciences）が開催される運びとなった．この国際シンポジウムは隔年でベトナムを中心に開催され，日本，ベトナムのみならず東南アジア諸国からの参加も得て，現在も継続して開催されている．この学術交流をきっかけとして，ベトナムを中心に地球情報学を学ぶ留学生が日本に留学し，その卒業生は，母国の大学で研究・教育にあたるまでになっている．また，ハノイの地盤・都市空間特性や，ベトナム北部での斜面災害特性の共同研究などが実現し，その成果も国際誌に示されるようになった．このように，先生には，地球情報学や応用地質学における国際連携と継続的な交流発展に至るきっかけを与えていただいた．

大阪工業大学を退職後は，協同組合 関西地盤環境センターの顧問を務められ，関西圏で行われる学会や技術研究会などに参加され，発表者に対してご自身の経験に即した意見を述べられ，懇親会にも参加されながら業界の発展にも大きく寄与されてこられた．ご自身の体調のこともあり，同センター顧問を2017年で辞退されたとのことである．

その後，自宅でのご療養をされ，昨年夏ごろには，外出されるまでに回復されたようであるが，秋ごろから再び体調を崩され，急性肺炎による呼吸器不全で，ご家族に見守られて息を引き取られた．先生のご葬儀はコロナ禍にある中，ご親族のみで執り行われたとのことである．

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします．

（**三田村宗樹**）

追　悼

名誉会員　黒田吉益先生のご逝去を悼む

日本地質学会名誉会員，信州大学名誉教授の黒田吉益先生は，2021年1月4日，肺炎・肺がんのため亡くなられました．享年94歳でした．ご葬儀は，コロナ感染拡大のため，ご親族だけで行われました．

黒田先生は1927年（昭和2年）熊本県にお生まれになり，旧制第7高校を経て，九州帝国大学理学部に進学され，1948年3月に卒業されました．「大崩山の花崗岩とその周辺の地質」を卒研テーマとし，杉健一先生と松本達郎先生の指導を受けました．卒業後，牛来正夫先生のおられた東京文理科大学（のちの東京教育大学）の助手に採用され，1973年5月に信州大学に移られるまで，東教大で岩石学の研究と教育にあたられました．東教大時代の研究対象は，1960 年代半ばまでは変成岩（日立および阿武隈変成岩）で，日立変成岩の研究に対して東京文理大から理学博士の学位を授与されました（Sci.Rep.Tokyo Kyoiku Daigaku, Sec.C, p.1-70; 1959）．Kano and Kuroda（1968）による，阿武隈変成岩からの十字石・藍晶石産出の報告は，低圧高温タイプとされた御在所・竹貫変成岩の変成史解明に大きな影響を与えました．東教大時代後期には，超苦鉄質岩も研究対象とされました．その時期の代表的な業績は，共著（Research group of peridotite intrusion,1967）として発表された，日本の変成帯に産する超苦鉄質岩の総括です．すなわち，日本の変成帯にはそこに産する超苦鉄質岩からみて，ハルツバージャイトを主とする帯と，ウエールライトを主とする帯などがある，という，変成帯ごとの特徴を明らかにしたことです．

信州大学に移られた1974年ころからは，松尾禎士先生，鈴置哲朗先生および信州大学山田哲雄先生と卒研生の協力を得て，水素同位体比に基づく花崗岩の研究を進めました．黒雲母と角閃石についての水素同位体比（δD）対Fe/（Mg+Fe）関係により，花崗岩には，Suzuoki and Epstein（1976）の実験結果と合致する平衡型と，合致しない非平衡型があることを見出しました．平衡型／非平衡型が生ずる理由は現在でも明らかになっていません．水素同位体比に関する黒田先生の研究の全容は，著書「水素同位体比から見た水と岩石・鉱物」(共立出版，2002)にまとめられています．

黒田先生の学風は「自然をコンコンとたたいて反応をみる」ことでした．今の時代は，科研費申請書類におけるように，研究の意義，予想される結果を，隙無く書いて行うことが求められていますが，黒田先生は，見通しが定かでないことでも，実験や分析を行うことをいといませんでした．ペクトライト($NaCa_2Si_3O_8$ (OH))が極の氷に匹敵するような非常に低いδDを示すことの発見も，そのような研究態度から得られたことだと思います．

黒田先生はロシア語が堪能で，ロシア語論文を翻訳して地質調査所月報などで紹介されました．黒田先生単独ではコルジンスキー「交代作用の熱力学」（共立出版，1970）を，地団研翻訳グループの一員としてシェインマン「マントル地質学」（築地書館，1970）など数書を翻訳されました．

黒田先生は研究者として輝かしい業績をあげられただけでなく，大学運営や学会活動でもリーダーシップを発揮されました．日本地質学会会長を1期（1988-1990）務められ，岩石鉱物鉱床学会では長期間にわたって評議員として学会の運営に携わりました．また，学術会議第四部会員に3期（1977-1984）選出され，鉱物学研究連絡委員，地球化学宇宙科学研究連絡委員，UMP，GDP，DELP，IGCP分科会（専門委員会）委員として，またユネスコ東南アジア地球科学ネットワーク日本代表委員として国際交流に努められました．1980年以降，文化庁の審議会委員として，文化財の保護に関わりました．1980年代の社会情勢は，臨時教育審議会が発足し，その答申により大学審議会が設置されるなど，国立大学に対する風当たりが強くなる一方の困難な時期でしたが，その時，信州大学理学部長に連続3期（1982-1988）選出されるなど，大学組織のかじ取りをまかされました．

黒田先生は退職前の数年間，前立腺手術の予後不良，交通事故さらに脳出血と，大病と事故に苦しみましたが，病気回復後は，JICAプロジェクトである「中国鉱物資源探査研究センター」の設立に取り組み，日中科学者間の交流発展に尽力しました（1994-2001）．この期間18名の中国人研究者が日本で研修を受け，39名の日本人研究者が中国に派遣されました．この功績により，黒田先生は中国国務院より「中国国際科学技術合作賞」を授与されました．

黒田先生ご自身は，「自分は研究や学会・大学運営，国際交流については自負しているが，教育だけは不十分であった」と述懐されたことがありましたが，信州大学在職中，山田哲雄先生の助力を得て48名の卒論生，19名の院生を指導し，社会に送り出しました．また参考書として，親友の諏訪兼位先生との共著「偏光顕微鏡と岩石鉱物　第2版」を上梓され，それは地質系学生にとって薄片観察における座右の書となっています．

黒田先生の奥さまは，2003年ごろから難病であるパーキンソン病をわずらい，病院に入院するまえは，ご自宅で黒田先生が介護をされていました．奥さまは2年前に亡くなられました．黒田先生が信州大学に在職中，先生と奥さまは，毎年12月末に卒研生や院生，私（森清）をご自宅に招き，忘年会を開いてくれました．奥さまの手作りの料理を堪能しながら，お酒を飲んだその時のことを忘れることはできません．黒田先生と奥さまのご冥福を心よりお祈りいたします．

（森清寿郎・秋山雅彦）

学　会　記　事

2020年度第6回執行理事会議事録

期日：2020年11月14日（土）10:00～15:10
【WEB 会議】
出席者：磯崎会長・佐々木・中澤・緒方・亀高・辻森・星・坂口・小宮・大藤・狩野・松田・矢部・高嶋
欠席者：平田・ウォリス・岡田
事務局 澤木
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者14 名，委任状 3 名，合計 17 名の出席
＊前回議事録（20-5 回）の確定.

報告事項

1．全体的報告
1）名古屋大会の代替企画について（状況報告）
①支部・部会単位の学術発表会：
・構造地質部会オンライン例会開催報告（濱田）若手を対象としてライブ形式の口頭発表が行われ，82 名が参加した．学生優秀発表賞として3件を顕彰した．盛会であり今後の参考になる良い集会であった.
・四国支部例会開催（オンラインでの実施することに決定）
②ジュニアセッション（デジタルポスター）（高嶋）：16校18件の発表に対して審査を行い，優秀賞3 件，奨励賞4 件を選出した．例年並みの応募数であった．レギュラー校だけでなく新規参加校もあった．全体に優れた研究発表が多かった.
③地質系若者のためのキャリアビジョン誌（坂口）：編集中．今月中の発送を目指す.
④第2回「コロナ禍での地質学教育に関するサイバーシンポジウム」（星）：11/29（日）に開催予定．HPに開催情報掲載済．第3回も検討中.
⑤JABEEオンラインシンポ（佐々木）：予定通り準備中.
⑥第二回ショートコース（星）：100 名近くが参加して成功裏に終了した．質疑も活発であった．参加者アンケートでも好感触であり今後も継続する方向があらためて確認された．具体的なスケジュールや担当者を検討する.
2）名古屋大会“市民講演会「動物の進化を探る-古生物学の世界-」および地質情報展2021あいち”に対する科研費を申請した（11/5締切，採択結果は2021年4月通知予定）.
２．運営財政部会（緒方・亀高）
1）総務委員会
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
・令和2年福島県教育委員会学芸員（自然）採用選考予備試験が実施予定であったが，中止となった旨通知があった.
・消防庁より，令和3 年度「消防防災科学技術研究推進制度」における新規研究開発課題の募集があった（12/23締切）（→ニュース誌，geo-flash掲載）
・令和2年度自然史学会連合講演会「九州北部から広がる自然史研究：化石からランまで」（12/6，場所：北九州市立いのちのたび博物館）の開催案内があった．（→geo-flash掲載）
・原子力環境整備促進・資金管理センターより，放射性廃棄物の地層処分に係る萌芽的・基礎的研究テーマ及び研究実施者の募集について，締切延長の連絡があった（11/9に締切延長）→（→geo-flash掲載）
・地学団体研究会より，声明「高レベル放射性廃棄物の地層処分について第三者委員会による国民的・民主的な議論を求める」（11/8付）の連絡があった.
＜会員＞
1．今月の入会者（3名）
正会員（1名）：冨永満生
正（院割）会員（2名）：陳 翔羽，田中湧朔
2．今月の退会者（なし）
3．2020年10月末会員数
賛助：27，名誉：43，正会員：3369［正会員：3282，正（院割）会員：84，正（学部割）会員：3］，合計 3439（昨年比 -174）
＜会計＞
・地質学会監修の宝島社「やばすぎ！古生物図鑑」（韓国語翻訳版）の著作権料の入金があった．少額のため，著者らの承諾を得て，学会（出版事業費）への寄付としていただくこととなった.
＜その他＞
・10月報告時に引き続き，各主担当を決めて下記の運営改善策を検討中，12月の執行理事会・理事会に検討中内容の報告を予定.
・事務局契約職員（白木玲子氏）について，雇用条件を一部変更して来年1月よりさらに1年間契約を更新する予定.
３．広報部会（坂口・小宮）
1）広報委員会（坂口）
・ジオルジュ 2020年後期号（通巻18号）が発行となった．11月号雑誌とともに会員に配布予定.
・地質学会のSNS活用について検討する.
４．学術研究部会（辻森・ウォリス・星）
1）行事委員会（星）
・名古屋大会代替企画（→全体報告へ）
2）専門部会連絡委員会（辻森）
・部会規則整備について検討中.
3）国際交流委員会（ウォリス）
・台湾地質学会とのMOU書式を台湾に郵送した（11/4）．今後オンラインセレモニーの実施等について台湾側と相談して進める.
4）地質標準化委員会（辻森）
・ICS 国際年代層序表の最新日本語版（v2020/03）を作成し，学会HP を更新した．前回からの変更点は，古第三系／紀の階／期の「プリアボニアン」にGSSPが定められ、その下限が37.8 Ma から 37.71Ma になった.
５．編集出版部会（大藤・狩野）
1）地質学雑誌編集委員会(大藤)
（1）編集状況報告（11月10日現在）
・2020 年投稿論文：70［内訳］論説37（和文37），レター 11（和文9・英文2），総説3（和文3），ノート3（和文2，英文1），報告7（和文6，英文1），口絵1（英文1），巡検案内書8
査読中：33 受理済み：20（うち特集号6 案内書2）
・126巻10月号：通常号 論説2篇，レター 2 篇，口絵1篇（約55頁，発行済）
・126巻11月号：通常号 論説2篇，レター 2 篇，報告1編，ノート1編（約50頁，校正中）
2）アイランドアーク編集委員会(狩野)
（1）編集状況報告
・年間投稿数は順調に推移している．査読日数の短縮，特集号の進捗を促進させるなどきめ細かくケアしていく.
3）企画出版委会（小宮）
特になし
6．社会貢献部会（松田・矢部・高嶋）
1）地学教育委員会（高嶋）
・ジュニアセッションについて（→全体報告へ）
2）地質技術者教育委員会（佐々木）
・JABEEオンラインシンポジウムについて（→全体報告へ）
・JABEE地球・資源分野の運営組織の変更については，幹事学会である資源・素材学会で検討を継続中とのこと．その結果にもとづき，分野運営委員会を開催したのち，資源・素材学会から正式に当学会に提案があるとのこと.
・2020 年度JABEE 継続審査の地球・資源分野の審査員らについて，当学会から推薦した候補者について，委員就任の内諾打診が資源・素材学会から行われた.
3）生涯教育委員会（矢部）
・2022年の国際鉱物年についての取り組み：（公財）益富地学会館が毎年開催している「石ふしぎ発見」展の特別展として，“国際鉱物年”を冠したイベントが2021 年秋に開催できないか検討中であり，地質学会としても協力する.
7．その他執行理事会の下に設置される委員会
1）利益相反マネージメント委員会（中澤）
特になし
8．理事会の下に設置される委員会
1）ジオパーク支援委員会（平田）
・白山手取川ジオパークのユネスコ世界ジオパーク国内推薦が決定した．（現在，日本ジオパーク43地域（うち世界9））.
・ジオパークコンソーシアム設立検討会議（10/5 開催，天野委員長・利光委員出席）があった．天野委員長から，今後の立ち上げスケジュールなどが示された．学会が正式にコンソーシアムに参加するかどうかは，今後，設立検討会議で議論される組織の位置付け，運営方針などをみながら改め

て検討することとした．
2）地学オリンピック支援委員会（高嶋）
・一次，二次試験はオンライン実施．本選はつくばで開催予定．
3）支部長連絡会議（平田）
・関東支部「オンライン講演会－おうちで学ぶ恐竜研究の最前線－」（12/12 開催予定，講師：髙桒祐司氏・田中康平氏）
4）地質災害委員会（松田）
・学術フォーラム・防災連携シンポジウム「東日本大震災から10 年とこれから」（日程：2021 年1 月14日）開催案内．ニュース誌，HPでも会員に周知する．
5）名誉会員推薦委員会（佐々木）
・階層別委員の選任について（→審議事項へ）
6）各賞選考委員会（中澤）
・月末締切で応募中
7）男女共同参画委員会（委員長 堀 利栄；代理 中澤）
・男女共同参画委員会規則変更の提案（→審議事項へ）
8）法務委員会（中澤）
特になし
9）連携事業委員会（中澤）
特になし
9．研究委員会
1）地質環境長期安定性研究委員会（委員長 吉田英一）
特になし
2）南極地質研究委員会（委員長 小山内康人）
特になし

審議事項

1．2020年度事業報告（案）・2021年度事業計画骨子（案）
磯崎会長から原案が示され，方針の詳細が説明された．各部会の内容を確認する．今後は若手や女性の人材育成と登用に積極的に取り組む．
2．執行理事会の成立要件に関わる理事会規則変更の提案（佐々木）
執行理事会に関する理事会規則について，執行理事会の定足数を理事会と合わせて構成員の過半数とし，委任は認めないこととして出席者の過半数をもって議決するとの変更案が提案された．本規則はガバナンスの問題から理事会規則に一致させる必要があるとの説明があった．さらに，現状WEB会議が主流になって出席率の向上があるため、執行理事会の運営に問題は起こらないことの補足説明があり原案通り了承された．
3．名誉会員推薦委員会の階層別委員の選任（佐々木）
推薦委員会階層別委員の候補案が提案され，原案通り了承された．
4．100周年記念誌「日本の地質学100年」の再販売価格についての提案（緒方）
日本地質学会100周年を記念して制作された「日本の地質学100年」は，100周年記念の寄付者に寄贈配布および有償配布されてきたが120部の在庫となっている．優れた書籍であるので3,000円（送料込み）の価格で再販売したいと提案があり，原案通り了承された．
5．表彰制度の見直しについて（磯崎会長）
継続審議となっている表彰制度の見直しについて，全体のバランスと各賞の位置付けの詳細を議論した．新しい表彰制度に移行するための運営規則および選考規則の改正手順と日程を確認した．次の理事会で審議する．
6．行動規範について
日本地質学会行動規範が2011年に制定されて約10年が経ち，この間の社会や会員の動向に合わせて改定する方向性が議論された．法務委員会に検討を依頼する．
7．男女共同参画委員会規則変更の提案（中澤）
多様な背景を持つ会員が活躍できる環境をづくりを推進する主旨に合わせて，男女共同参画委員会規則の変更が提案された．理事会にて審議することとした．
8．理事会審議事項の確認
①総会の日程について（6月第2週あたりで検討する）
②2020年度事業報告（案）
③2021年度事業計画骨子（案）
④名誉会員推薦委員会委員の選出・承認
⑤専門部会規則の制定について
⑥理事会規則の変更
⑦男女共同参画委員会規則の変更
⑧表彰制度の見直しについて（運営規則，各賞選考規則改正）
⑨その他
9．その他
・第１回「コロナ禍での地質学教育に関するサイバーシンポジウム」を受けて，デジタルデバイスを用いた理科教育の充実のために，教材向けのデジタルコンテンツのアーカイブ化と公開方法を検討する．

以上

2020年12月5日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）磯崎行雄
署名人 執行理事 中澤 努

2020年度第7回執行理事会議事録

期日：2020年12月5日（土）10:00～12:30
【WEB会議】
出席者：磯崎会長・平田・佐々木・中澤・緒方・亀高・辻森・星・坂口・小宮・大藤・狩野・松田・矢部・高嶋・岡田・ウォリス
欠席者：なし
事務局 澤木
＊定足数（12，委任状含む）に対し，出席者17名，委任状0名，合計17名の出席
＊前回議事録（20-6回）の確定．

Ⅱ　報告事項

1. 全体的報告
1. 名古屋大会の代替企画について（状況報告）
①地質系若者のためのキャリアビジョン誌（坂口）：25社（賛助会員8）参加．フルカラー 28頁冊子を作成．43大学48機関へ2120部を発送した．黒字発行となった
②第2回「コロナ禍での地質学教育に関するサイバーシンポジウム」（星）：11/29（日）に開催．配信当日の視聴回数：211回．各発表動画をYoutubeで公開中．
③JABEEオンラインシンポ（佐々木）：予定通り準備中．
2. 運営財政部会（緒方・亀高）
1. 総務委員会
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
・令和2年福島県教育委員会学芸員（自然）採用選考予備試験実施の通知があった（締切12/23）（→geo-flash掲載）
・三菱財団より2021年度助成金（自然科学研究助成ほか）公募のお知らせがあった（→ニュース，geo-flash掲載）
・深田地質研究所より「2021年度深田研究助成」の公募のお知らせがあった．（締切21/2/5）（→ニュース，geo-flash掲載）
＜会員＞
１．今月の入会者（１名）
正会員（１名）：林　宏樹
２．今月の退会者（なし）
３．今月の逝去者（なし）
４．2020年11月末会員数
賛助：27，名誉：43，正会員：3372［正会員：3283，正（院割）会員：86，正（学部割）会員：3］
計　3442（昨年比-168）
＜会計＞
特になし
＜その他＞
・総務委員会にて運営財政上の課題（会員管理へのクラウドシステム導入案、収支改善策、会員増加策）について検討を進めている．また他学会行事支援形態について概定された。（20-4理事会議事録参照）
・収支改善策、会員増加策について，学生，院生の会費の大幅削減や，雑誌の電子化，在会のメリットなどいくつか意見交換があり，いずれも総合的な検討と早急な対策が必要であることが再確認された．タスクフォース（TF）を設置し，財務状況の試算を含めて，来年3月までに具体案を示す．
・事務局の白木職員について，来年1月9日以降は週3日勤務として，引き続き職務を継続して頂く予定である．
3. 広報部会（坂口・小宮）
1）広報委員会（坂口）
特になし
4. 学術研究部会（辻森・ウォリス・星）
1）行事委員会（星）
・名古屋大会代替企画（→全体報告へ）
2. 専門部会連絡委員会（辻森）

・部会規則整備と年次活動を各部会に依頼中．4月理事会で報告予定．
3. 国際交流委員会（ウォリス）
・交流学会へクリスマスカードを準備中．コロナの影響による郵便引受停止を受けて，モンゴル地質学会のみ今年はメールで対応する．
4. 地質標準化委員会（辻森）
・国際年代層序表の日本語版を最新に更新した（v2020/03）．それに伴い国際層序委員会（ICS）のサイト上の日本語版も更新された．
5．編集出版部会（大藤・狩野）
1）地質学雑誌編集委員会(大藤)
(1) 編集状況報告（12月4日現在）
・2020年投稿論文：72［内訳］論説39（和文39），レター11（和文9・英文2），総説3（和文3），ノート3（和文2，英文1），報告7（和文6，英文1），口絵1（英文1），巡検案内書8
査読中：32　受理済み：18（うち特集号7 案内書2）
・126巻11月号：通常号　論説2篇，レター2篇，報告1編，ノート1編（57頁，発行済み）
・126巻12月号：通常号　論説3篇，ノート1編（約50頁，入稿中）
・投稿数増のための方策に関して，以前からカラー印刷や超過ページの著者負担軽減の要望があるが，それらについては雑誌電子化で解決できると考えていると大藤委員長よりコメントがあった．
2）アイランドアーク編集委員会(狩野)
(1) 編集状況報告
・投稿数（特にソフトロック系）が減少傾向にある。中国国内誌がSpringer & Nature系同様に充実し，中国からの投稿数が減少していることが原因のひとつと分析している。
・投稿者の誤解を少なくするために，WebサイトのAims and scopeの文章をもっと幅広い内容を含むものに変更した。
3）企画出版委会（小宮）
特になし
6. 社会貢献部会（松田・矢部・高嶋）
1）地学教育委員会（高嶋）
特になし
2. 地質技術者教育委員会（佐々木）
・JABEEオンラインシンポジウムについて（→全体報告へ）
3）生涯教育委員会（矢部）
特になし
4）地震火山地質こどもサマースクール（松田）
・11月29日にWeb会議で実施された3学会（地震，火山，地質）連合企画会議に参加した．来年実施予定のサマースクール（浅間）の下見の報告等があった．再来年の開催地の公募の準備も進めている．
7. その他執行理事会の下に設置される委員会
1）利益相反マネージメント委員会（中澤）
特になし
8. 理事会の下に設置される委員会
1）ジオパーク支援委員会（委員長　天野）
・「ジオパーク・コンソーシアム（仮称）」の設立について（→理事会審議事項へ）
2）地学オリンピック支援委員会（高嶋）
・12/20に第13回日本地学オリンピック1次予選（オンライン）が開催予定．
3）支部長連絡会議（平田）
各支部に支部規則（特に表彰規則）の整備を検討依頼中．
4）地質災害委員会（松田）
・来年の1月14日に開催される「東日本大震災からの十年とこれから–58学会，防災学術連携体の活動–」に地質学会として発表申込を行った．「東日本大震災後の古津波堆積物研究の現状と将来展望」（後藤和久；日本地質学会理事　東京大学）
・東日本大震災から10年の節目に，学会からのコメントをプレスリリースする．会長，中澤常務らと調整してコメント作成する．
5）名誉会員推薦委員会（佐々木）
・委員の選出について（→理事会審議事項へ）
6）各賞選考委員会（中澤）
・各賞の推薦応募は12月1日で締め切った（→理事会報告事項へ）
・各賞選考検討委員会委員の推薦について（→審議事項へ）
7）男女共同参画委員会（委員長 堀　利栄；代理 中澤）
・男女共同参画委員会規則変更の提案（→理事会審議事項へ）
8）法務委員会（中澤）
・学会行動規範の改定の検討を開始した．
9）連携事業委員会（中澤）
特になし
9. 研究委員会
1）地質環境長期安定性研究委員会（委員長 吉田英一）
特になし
2）南極地質研究委員会（委員長　小山内康人）
特になし

審議事項

1. 理事会審議事項及び資料確認
資料に沿って、理事会審議事項が確認された．
2. 各賞選考検討委員会委員の推薦について
過去の学会受賞者から選考分野のバランスを考慮して8名を推薦し，打診することとした．
3. シニア会員(仮)設置の検討について
磯崎会長より会費の一括支払いで永年会員顕彰するなどの、シニア世代に向けた方策について提案があった．メールアドレスを発行するなど他にもいくつか意見が出された．会員増加策検討のためのTF（総務委員会報告参照）であわせて検討を進めることとなった．

以上

2021年1月9日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）磯崎行雄
署名人　執行理事　中澤　努

2020年度第8回執行理事会議事録

期日：2021年1月9日（土）13:00～17:30
【WEB会議】
出席者：磯崎会長・平田・佐々木・中澤・緒方・亀高・辻森・星・坂口・小宮・大藤・狩野・松田・矢部（途中退出）・高嶋・岡田・ウォリス
欠席者：なし
事務局 澤木
＊定足数（過半数：9）に対し，17名の出席
＊前回議事録（20-7回）の確定．

報告事項

1. 全体的報告
・学会運営検討タスクフォース第1回会合報告（中澤）（→審議事項へ）
・日本生態学会より自然史学会連合を通じて「気象庁による生物季節観測の変更の見直しについての要望書」提出（20/12/28提出）に対する賛同の是非について確認があったが，地質学とは異なる分野の要望書であり，地質学会が責任をもって賛同する立場にはない．また今回は自然史学会連合としての要望書では無いことから，特段に賛同の意は表明しなかった．
2. 運営財政部会（緒方・亀高）
1. 総務委員会
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
・科学教育研究会第68回全国研究大会・福島大会（21/7/31-8/2：福島県伊達市）への後援依頼があり，承諾した【→geo-flash，ニュース誌】
・令和2年度国土技術政策総合研究所講演会（21/1/18：オンライン）の開催案内があった【→geo-flash，ニュース誌】
・産業技術総合研究所・地圏資源環境研究部門第33回GSJシンポジウム地圏資源環境研究部門 研究成果報告会「地圏に関わる社会課題の解決に向けて」（21/2/5：オンライン）の開催案内があった【→geo-flash，ニュース誌掲載】
・一般社団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会では，機関誌『ナチュラル ヒストリー ミュージアム』を発刊の案内があった．
＜会員＞
1. 今月の入会者（1名）
正会員（1名）：佐藤和也
2. 今月の退会者（なし）
3. 今月の逝去者（3名）
名誉会員（1名）：藤田　崇（逝去日 20/11/16）

正会員（2名）：古賀孝徳（逝去日20/4/1），白木敬一（逝去日20/10/16），土志田達治（逝去日20/11/11）
4. 2020年12月末会員数
賛助：27，名誉：42，正会員：3373［内訳正：3284，院割：86，学部割：3］
合計3442（昨年比-165）
＜会計＞
・学術著作権協会より2020年度の分配金の振り込みがあった（￥182,443）.
＜その他＞
・会員管理クラウドシステム導入について，事務局と相談のうえ進めている.
3. 広報部会（坂口・小宮）
1）広報委員会（坂口）
・フォトコンテスト作品募集中.
・Q&Aコーナーに4件質問が寄せられている．順次対応中.
4. 学術研究部会（辻森・ウォリス・星）
1. 行事委員会（星）
(1)2021年学術大会（名古屋）について
・20年大会で開催予定だったトピックセッション（7件）について，世話人に再度開催の希望を確認した．全て開催希望.
・上記に追加する形で，ニュース誌１月号でトピックセッションの応募を行う.
・大会開催方法について（→審議事項へ）
2. 専門部会連絡委員会（辻森）
・部会規則整備と年次活動を各部会に依頼中．4月理事会で報告予定．応用地質研究部会から部会規則，現行地質過程部会から年次報告の連絡があった.
3. 国際交流委員会（ウォリス）
・台湾の地質学会より返信があり，5年間のMOU更新手続きが完了した（20/10/12付）．更新に際して，両学会長のオンライン会談を予定（1/22）.
4. 地質標準化委員会（辻森）
・（IUGS）の国際層序委員会HPの国際年代層序表日本語版リンクも最新版に更新されていることを確認した.
５．編集出版部会（大藤・狩野）
1）地質学雑誌編集委員会(大藤)
（1）編集状況報告（12月31日現在）
・2020年投稿論文：74［内訳］論説40（和文40），レター11（和文9・英文2），総説3（和文3），ノート3（和文2，英文1），報告8（和文7，英文1），口絵1（英文1），巡検案内書8
査読中：27　受理済み：19（うち特集号8案内書2）
・126巻12月号：通常号　論説3篇，ノート1編（55頁，発行済）
・127巻1月号：通常号　論説３，レター1，報告１（約65頁　校正中）
（2）その他
・オープンアクセスリポジトリ推進協会より学協会著作権ポリシーデータベース整備のための，機関リポジトリへの論文登録に関する方針の確認があった.
2）アイランドアーク編集委員会(狩野)
（1）編集状況報告
・Willeyの方針で，2年後に無料でのオープンアクセス（OA）化をやめ，全て有料（20万円程度）となる.
・Vol.25（2016年）以降の論文について，OAとDL数，IFの相関について分析した．OAとDL数には相関があったDLが伸びても必ずしも引用されているわけではなく，OAとIFとの顕著な相関は認められなかった.
3）企画出版委会（小宮）
特になし
6. 社会貢献部会（松田・矢部・高嶋）
1）地学教育委員会（高嶋）
・大学共通テストの試験問題について，講評予定．ただし今年は追試を含め試験が3回実施されるため，講評作業は例年より遅くなる.
2. 地質技術者教育委員会（佐々木）
（1）JABEEオンラインシンポジウム（名古屋代替企画）
・3月7日の開催に向け，予定どおり準備中.
・1月中に各講師による講演資料を集める予定.
（2）委員会開催
・上記シンポジウムの進捗確認やJABEE地球・資源分野運営委員会の運営方法などについて検討するため，地質技術者教育委員会（WEB会議)を1月19日（火）に開催する予定.
3) 生涯教育委員会（矢部）
特になし
4）地震火山地質こどもサマースクール（松田）
・2022年度開催地候補募集（募集期間：1/12-2/10）．ニュース，メルマガ等で広報
7. その他執行理事会の下に設置される委員会
1）利益相反マネージメント委員会（中澤）
特になし
8. 理事会の下に設置される委員会
1）ジオパーク支援委員会（委員長　天野：代理　平田）
・昨年末に行われた再審査については，2月の日本ジオパーク委員会にて審議が行われ、結果が発表される予定.
2）地学オリンピック支援委員会（高嶋）
・地学オリンピックの一次予選がオンラインで2020年12月20日（14～15時）に実施された．50点満点中，平均は24.06点．受験人数は1,383人で，うち，一次予選通過は，212名.
・現在，一次予選問題の講評を地学オリンピック支援委員会で作成中.
・二次予選は2021年1月24日18時より，オンラインで実施予定（90分程度の予定）.
・本選は2021年3月14～16日につくば市で行う予定（状況によりオンラインの可能性あり）.
・一次予選の問題・解答・予選結果，得点分布は，下記よりダウンロード可能https://jeso.jp/jeso/pre.html
・地学オリンピック日本委員会より，地質学会のリンク掲載（学会バナーの掲載）および今後の地質学会催事情報の掲載依頼があり，承諾した.
3）支部長連絡会議（平田）
・四国支部総会・講演会開催報告（12/5開催）
4）地質災害委員会（松田）
・防災学術連携体シンポは完全オンラインで実施することとなった．また事前登録者が多数あったため，急遽YouTube配信となった.
5）名誉会員推薦委員会（佐々木）
・12月28日に理事会と専門部会宛に候補者推薦の依頼を行った．推薦の締め切りは2月10日（水）.
6）各賞選考委員会（中澤）
特になし
7）ジェンダー・ダイバーシティ委員会（委員長 堀　利栄；代理 中澤）
特になし
8）法務委員会（中澤）
・行動規範の見直しを行なっている.
9）連携事業委員会（中澤）
特になし
9. 研究委員会
1）地質環境長期安定性研究委員会（委員長 吉田英一）
特になし
2）南極地質研究委員会（委員長　小山内康人）
特になし

審議事項

1. 2020年度実績概要および2021年度事業計画骨子（案）の最終確認
文中の「(予定)」となっている箇所を順次変更するなど，軽微な文言の修正を確認した.
2. 表彰制度見直しに係る学会運営規則及び各賞選考規則の改正案（賞名称と施行期日の確認）
以下2点について承認した.
・12月理事会で提案した「功労賞」を「功績賞」して再提案．従来の功労賞は「地質学会表彰」に吸収する．功労賞の名称は廃止.
・施行期日を総会直後の7月1日とした（ただし小澤賞，柵山賞は来年2022年7月1日より施行）
3. 学位授与機構からの機関別認証評価委員会専門委員候補者の推薦
独立行政法人大学改革支援・学位授与機構からの要請のあった専門委員（国立大学教育研究評価委員会専門委員および機関別認証評価委員会）候補者として4名の会員を推薦することとした.
4. 学会としての新型コロナ対応方針の確認
「緊急事態宣言発令地域や県知事等による外出自粛要請が出ている地域での対面イベントは行わない」という趣旨のメッセージを会長

名でホームページに掲載する（1/9付けHP掲載）.
5. 2021年学術大会（名古屋）の開催方法について
本年の学術大会を開催する方針を改めて確認し，開催方法について以下の通り検討した.
①2月の段階で，ワクチンの見通しが立つなどした場合は，従来型（対面）の実施を予定．そうでなければ，下記の2オプションで進める.
②7月初旬に緊急事態宣言などの発令がなく，9月のイベント開催が可能な場合は，シンポジウムや市民講演会等最小限規模での現地開催（於　名古屋大会）を行い，通常セッションはオンラインで実施する.
③7月初旬の判断として9月の現地イベント開催が不可能な場合は，全てをオンライン開催とする.
6. 学会運営タスクフォース（TF）
TF第1回会合（12/25オンライン開催，メンバー：佐々木，緒方，辻森，星，大藤，坂口，中澤）の内容に基づき，議論した.

・学会運営検討タスクフォースより，総務委員会に対して，会員管理クラウドシステム導入を早急にすすめるべきとの提言を行う.
・雑誌，ニュース誌の電子化について：学会の財政状況を鑑みて，地質学雑誌は早々に完全電子化の方向で進める．ただし，ニュース誌は学会の帰属意識維持のために，電子化はするが，紙媒体での配布もあった方がよい．また，地質学雑誌のJ-Stage無料公開は現状では3ヶ月後だが，即公開した方がよい.
・SNSでの積極発信を進めたい．倫理面の管理が課題となるため，広報委員会を主体に担当者の人選を進めて欲しい.
・企業，若手向けのオンラインショートコースなどの開催を常時行うようにする.
・院生会費の大幅値下げ，シニア会員の一括会費など，総務委員会で実情把握，シミュレーションを進め，次回理事会で提案したい.
・シニア世代に向けた方策として，50年顕彰は良いシステムである．数年前からハガキなどで予告すると退会抑止に効果的ではないか．25年でも顕彰を実施してはどうか.

以上

2021年2月13日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）磯崎行雄
署名人　執行理事　中澤　努

表紙紹介

第11回惑星地球フォトコンテスト：スマホ賞
「風と波の合作」

写真：**加藤聡一郎**（愛知県）

撮影場所：台湾，野柳公園

撮影者より：台湾北部の野柳公園の風化によってできた奇岩を小山の上から撮影しました．この場所がいかに奇妙で，面白いかが一目でわかる写真だと思います．また，この奇岩の中の１つはクイーンズヘッドと呼ばれており，まるで女王が冠を被った頭のような形をしています．しかし何年風化が進み後3年もすればその女王の首が折れてしまうとも言われており，今しか見ることのできない光景となっています.

審査委員長講評：台湾北部の野柳地質公園を撮影した作品です．本コンテストでも過去に何点もの応募がありますが，いずれもキノコ岩をクローズアップしたものでした．本作品では，それらとは異なりやや遠くから撮影もので，地質構造や公園のようすがよくわかります．手前の樹木や草を整理して撮影すれば，すっきりした作品になったと思います．（審査委員長：白尾元理）

地質的背景：台湾北部の東海岸にある中新世（約2000万年前：N5-N4）大寮層という浅海性の厚い砂岩層からなります．大寮層には，有孔虫，貝化石，ウニ化石など豊富に含まれており，多くの炭酸塩ノジュールを含む．これらの砂岩層や頁岩層の侵食地形により様々な形態のモニュメントが有名ですが，この構図から，それらがある地層に沿って一列に並んで分布することがよくわかります．野柳は地質公園（ジオパーク）となっています．地層を写すため草をかき分けて頑張った雰囲気がよく出ていると思います．（清川昌一：九州大学）

学部学生・院生（研究生）の方へ「割引会費申請」について

2021年度（2021．4～2022．3）学部学生割引・院生割引会費の受付中

一般社団法人日本地質学会運営規則により，学部学生・院生（研究生）については，本人の申請によりそれぞれ割引会費が適用されます．該当される会員は下記の書式にて申請書を提出してください（郵送に限る）．

★注意★
毎年更新となりますので，次年度会費について該当する方は，必ず申請してください．
2021年度から社会人になるかたは，割引会費の申請はできません．

送付先：〒101-0032　東京都千代田区岩本町2－8－15　井桁ビル6階
一般社団法人日本地質学会

2021年度一般社団法人日本地質学会
学部学生割引・院生割引会費申請書

一般社団法人日本地質学会　御中
私は，運営規則第2章第7条第1項（1）に基づき，2021年度会費の

学部学生割引　・　院生割引　（いずれかに○）

を申請いたします．

申請日　　年　　月　　日

会員番号：

会員氏名：

現在の所属・学年：

大学	学部　　学科	年在学中
大学大学院	研究科 専攻	前期　・　後期 年在学中

2021年４月からの所属：（現在の所属と同じ場合には「同上」でも可）

大学・大学院名	学部学科・研究科専攻名

上記，本学の学生につき，学部生・定収のない院生（研究生）であることを証明いたします．

指導教員（等）
所属：
氏名：　　印

最終締切
2021年3月31日（水）

一般社団法人日本地質学会倫理綱領

2003年9月19日　日本地質学会総会制定
2009年12月5日　一般社団法人日本地質学会制定*

日本地質学会の会員は，科学的真理を明らかにする事を目的として，誠実かつ真摯に地質学および関連科学の研究・教育および調査を行う．その成果を広く社会に公表することにより地質学および関連科学の進歩普及を図り，もって社会の発展と人類の福祉に貢献する．会員は，基本的人権を守り，良識かつ品位のある行動をとる．

1. 科学者としての倫理：会員は，専門知識の向上および地質学と関連科学の発展を目指して自己研磨を図る．研究と調査においては，法を尊守し，社会的良識に従って行動する．科学的事実に対しては常に謙虚，誠実でなくてはならない．研究成果と技術上の知見を広く社会に公表し，公表にあたっては先人と他者の業績を尊重する．

2. 知的交流の確保：会員は，国際交流や他分野との交流を進めることを通して学術の向上を図るとともに，研究成果と技術上の知見が科学的に広く吟味・検証されるよう努める．

3. 人類と社会への責務：会員は，その専門知識と技術を適切に活用し，研究と調査の成果を広く社会に提供することを通して社会の発展と人類の福祉に貢献する．

4. 地球環境への責務：会員は，地球システムの諸現象についての専門家として，地質災害の予知と防止，地球環境の将来予測，資源の適正な活用に関する情報を提供するとともに，専門知識を活かして環境の保全と改善に努める．自らの研究と調査の実施にあたっては環境への影響を最小限にするよう配慮する．

5. 次世代への責務：会員は，地質学と関連科学における学術と技術の継承と発展，次世代を支える人材の育成を図る．研究や調査の成果物，重要な露頭や標本などの科学的遺産の保全に努める．

*2009 年12月5日法人理事会において，一般社団法人日本地質学会倫理綱領として全文引継を決定.

一般社団法人日本地質学会行動規範

2011年9月8日　一般社団法人日本地質学会理事会制定

日本地質学会が他機関や組織との連携事業を実施する際に，学会員の立場や責任について，学会員ならびに社会に明示するため，一定の規範が必要であるとの認識のもとに，本会倫理綱領を踏まえて行動規範を定めるものである．

（透明性，説明責任）
1. 会員は，地質学・地球科学分野の進展とその成果が与える社会的影響を自覚し，公益性の観点から客観的事実を明らかにするよう努力すると同時に，事実を社会に周知するよう努力する．
2. 会員は,専門の業務において,その目的・方法・成果等について,要求された場合には明快に説明する責任がある．特に専門家でない者には,相手の立場に立つ姿勢で分かりやすく説明する責任がある．

（自立・公益性）
3. 会員は，立案，計画，申請，実施，報告などの過程において，真実に基づき，公正であることを重視し，誠実に行動する．研究・調査データの記録保存や厳正な取扱いを徹底し，ねつ造，改ざん，盗用などの不正行為をなさず，加担しない．また，科学技術に関わる問題に対して，特定の権威・組織・利益によらない中立的・客観的な立場から討議し，責任をもって結論を導き，実行する．
4. 会員は，関与する計画と事業が人類社会や環境に及ぼす影響を予測評価する努力を怠らず，公衆の安全，健康，福祉を損なう，または環境を破壊する可能性がある場合には，中立性，客観性を保ち，自己の良心と信念に従って情報を公開する．

（中立公正）
5. 会員は，人種，性，年齢，地位，所属，思想・宗教などによって個人を差別せず，個人の人権と人格を尊重する．また，個人の自由を尊重し，公平に対応する．
6. 会員は,専門知識を説明するときは,一方的な価値観を押し付けることのないよう，他者の理解を得るように努める．
7. 会員は，他者と互いの能力の向上に努力し，専門上の批判には謙虚に耳を傾け，不公正な競争を排除する．

（契約に対する誠実性と利益相反）
8. 会員は，雇用者または依頼者それぞれのために，誠実な代理人または受託者として行動する．
9. 会員は，雇用者または依頼者から不適切な便宜供与を受けてはいけない．
10. 事業の結果および研究の成果が他団体または，自らを含む特定の個人に利益をもたらすことが予想される場合には，事前に雇用者あるいは依頼者の了承を得る．

以上

「子どもゆめ基金助成活動」 体験の風をおこそう

この教材は、平成29年度子どもゆめ基金（独立行政法人国立青少年教育振興機構）の助成金の交付を受けて、一般社団法人日本地質学会が作成したものです。

一般社団法人日本地質学会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町 2-8-15　井桁ビル
TEL：03-5823-1150　問合せ：main@geosociety.jp

※非営利目的の青少年教育活動で使用する場合にはご連絡ください。

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp